

ものづくり愛知県における安全・安心な生活基盤の確保（防災・安全）緊急対策

計画概要

◆計画期間

平成27年度～平成31年度(5年間)

◆計画の目標

洪水や高潮との闘いの歴史を継承し、地域と連携して平野部を中心としたハード対策や大規模災害に備えた施設づくりを実施し、風水害に対して安全・安心な地域を形成する。

◆計画の成果目標(定量的指標)

- 指標①:あいち耐震対策アクションプランに位置付ける河川堤防の耐震化優先対策区間の耐震化堤防延長を0kmから23kmにする。
- 指標②:あいち耐震対策アクションプランに位置付ける水門・排水機場等の河川管理施設で耐震化に着手する施設を0施設から17施設にする。
- 指標③:当面の計画規模の降雨に対し、未だ浸水被害を受ける可能性のある戸数を約30,071戸から29,176戸に減少。
- 指標④:県内の河川改修が必要な区間の整備率を53%(H26末)から54%(H31末)増加。
- 指標⑤:大田川流域における100mm/h安心プランを推進する。
- 指標⑥:河川管理施設のライフサイクルコストを図るため、長寿命化計画を策定する。
- 指標⑦:長寿命化計画に基づき、31箇所 of 河川管理施設の延命化を行う。

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A (基幹事業名)	16,189百万円	河川堤防の耐震化、河川施設の長寿命化、新川等の護岸改修、橋梁改築等を実施	33%
B 関連社会資本整備事業	0百万円		%
C 効果促進事業	35百万円	浸水想定区域図の作成。	100%
合 計	16,224百万円		

※事業費は実績額

※進捗率(%)は各事業の計画に対する実施割合【事業費ベース】

※計画の一部を他事業費によって実施

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況 (別紙1、2、3)

- ・境川水系境川総合治水対策特定河川事業(猿渡川)・・・別紙1
- ・柳生川水系柳生川地震・高潮対策河川事業(柳生川)・・・別紙2
- ・新川水系中江川総合治水対策特定河川事業(中江川調整池)・・・別紙3

Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標①(あいち耐震対策アクションプランに位置付ける河川堤防の耐震化優先対策区間の耐震化堤防延長を0kmから23kmにする。)
河川堤防の耐震化率:(耐震化した堤防延長:照査による不要区間含)/(優先対策区間計画延長57.2km)

最終目標値	40%	目標値と実績値に差が出た要因	防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策で事業の進捗が図れたことにより、耐震化率の実績が目標を上回る結果となった。
最終実績値	46%		

指標②(あいち耐震対策アクションプランに位置付ける水門・排水機場等の河川管理施設で耐震化に着手する施設を0施設から17施設にする。)
水門・排水機場等の河川管理施設の耐震化着手率:(耐震化に着手した河川管理施設)/(河川管理施設全27施設)

最終目標値	63%	目標値と実績値に差が出た要因	-
最終実績値	63%		

指標③(当面の計画規模の降雨に対し、未だ浸水被害を受ける可能性のある戸数を約30,071戸から 29,176戸に減少。)

最終目標値	29,176戸 (895戸減少)	目標値と実績値に差が出た要因	-
最終実績値	29,176戸 (895戸減少)		

指標④(県内の河川改修が必要な区間の整備率を53%(H26末)から54%(H31末)増加。)
(河川改修が当面の計画規模で完了した区間延長)/(県内の河川改修が必要な区間)

最終目標値	54%	目標値と実績値に差が出た要因	-
最終実績値	54%		

II 定量的指標の達成状況

指標⑤(大田川流域における100mm/h安心プランを推進する。)

最終目標値	133戸 (19戸減少)	目標値と実績値に差が出た要因	浸水戸数の目標は100mm/h安心プラン完了後の浸水戸数を反映しており、現時点では達成されていないため。 (100mm/h安心プランは令和7年度完了予定。)
最終実績値	152戸 (0戸減少)		

指標⑥(河川管理施設のライフサイクルコストを因るため、長寿命化計画を策定する。)

河川管理施設の長寿命化計画策定率: (長寿命化計画策定の河川管理施設)/(河川管理施設)

最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	27施設中25施設策定済み。残りの2施設は、設置から50年以上が経過し、老朽化が著しく、水門の改築等の実施後に策定を行うため。 (神戸川水門、石川浅水川水門)
最終実績値	93%		

指標⑦(長寿命化計画に基づき、31箇所(の河川管理施設)の延命化を行う。)

16箇所の排水機場と15箇所(の水門・樋門)の機能保持率

最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	-
最終実績値	100%		

◆今後の方針

- ・洪水や高潮との闘いの歴史を継承し、地域と連携して平野部を中心としたハード対策や大規模災害に備えた施設づくりを実施し、風水害に対して安全・安心な地域を形成するため、R2年度から新たな計画を策定し、河川整備によりその実現に努める。
- ・未完了の事業については、早期整備完了を目指す。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	策定主体にて評価を実施。 なお、計画の各要素事業(基幹事業)は愛知県公共事業評価実施要領に基づき評価を実施。
事後評価の実施時期	2022年3月
公表の方法	WEBページ掲載 (https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kasen/0000039039.html)



■事業名

境川水系境川総合治水対策特定河川事業（猿渡川）

■工事概要

猿渡川は、その源を豊田市山之手の市街地に発し、石田川、吹戸川、森前川及び下り松川と合流し衣浦湾に注いでおり、その延長は約17.5km、流域は刈谷市、知立市、安城市、豊田市の4市からなる流域面積約46km²の二級河川であり、製造業、特に自動車産業に係わる大規模な工場及び関連施設が存在し、住宅開発も進んでいる。地盤は液状化する緩い砂層が厚く堆積しているため、東海地震・東南海地震により液状化し、堤防が被災すれば浸水被害は甚大なものとなることから、愛知県国土強靱化地域計画/第3次あいち地震対策アクションプランに基づき、河川堤防の耐震補強を実施した。

■事業箇所

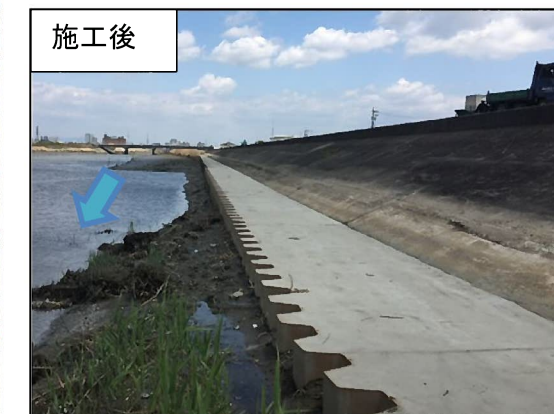
刈谷市

■事業主体

愛知県

■事業効果

地震による液状化に伴う、沈下等を抑制する河川堤防の耐震補強により、港湾・海岸事業も含めて一連区間が完了。



■事業名

柳生川水系柳生川地震・高潮対策河川事業

■工事概要

柳生川は、豊橋市街地を貫流する河川であり、今後30年間に70～80%の確率で発生することが予想される南海トラフ地震で河川堤防が沈下し、地震直後に常時水位で浸水する即浸水区間となっていることから、多大な死者数や堤内資産の被災が危惧される。また、2008年8月末豪雨で、河口より約5.1kmに位置する境橋上流で、内外水被害により、約10.4haが浸水し、床上浸水129棟を含む212棟が被災した。2014年12月に策定した「第3次あいち地震対策アクションプラン」及び2016年3月に策定した愛知県国土強靱化地域計画に基づき、2015年度より河川堤防の液状化対策に着手するとともに、高潮堤防の整備により浸水被害の解消を図る。



■事業箇所

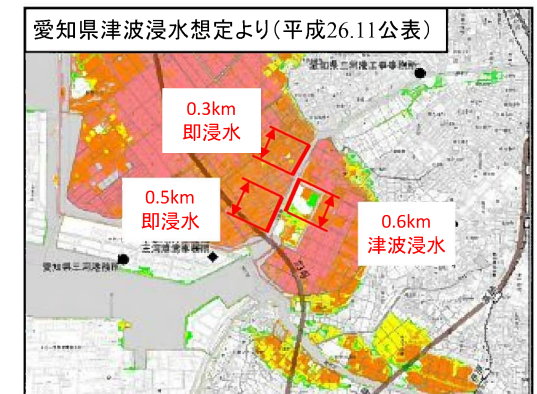
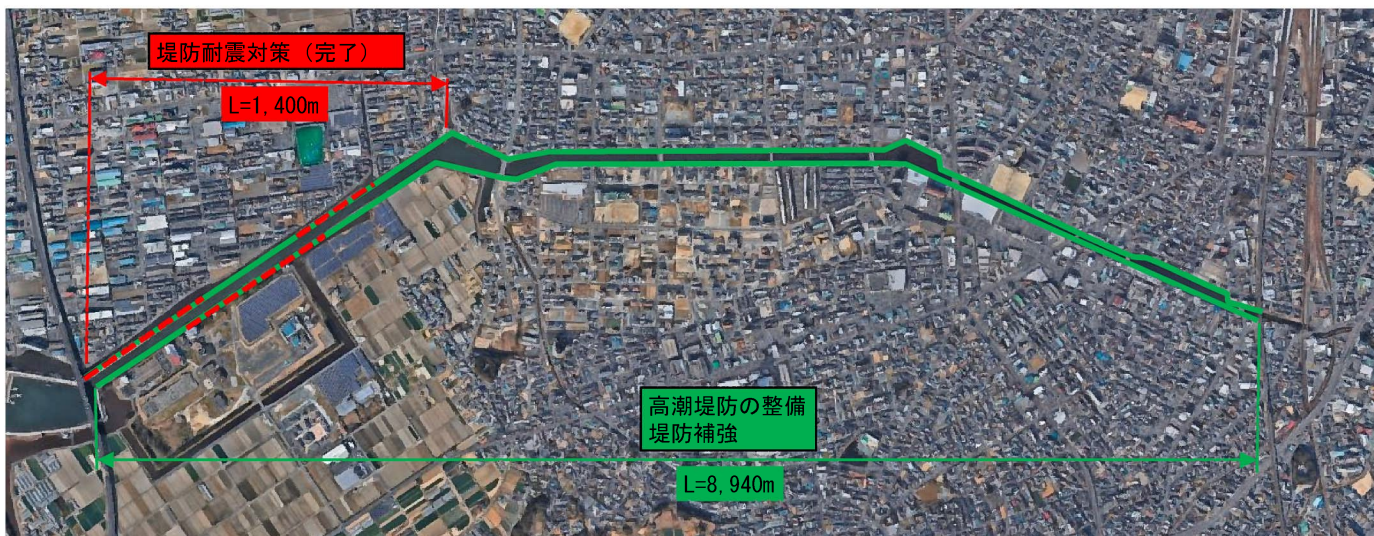
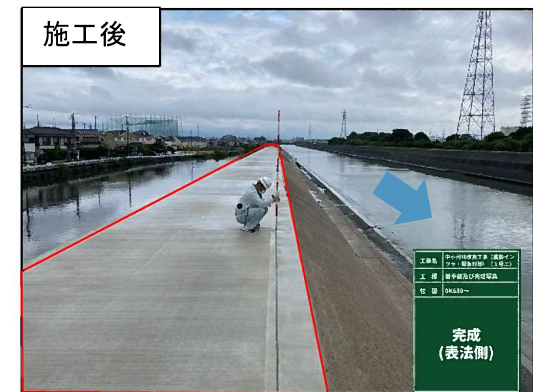
豊橋市

■事業主体

愛知県

■事業効果

地震による液状化に伴う、河川堤防の沈下等を抑制する、堤防耐震対策の必要な区間の整備が完了した。





■事業名

庄内川水系中江川総合治水対策特定河川事業（中江川調節池）

■工事概要

中江川と新中江川は、愛知県の北西部に位置し、大山川と合瀬川に囲まれた地盤が低い地域であり、平成3年9月台風18号による豪雨で床上浸水約158戸、床下浸水319戸の被害を受けたため、合瀬川合流点に排水機場を設置した。(18m³/s) また、平成12年9月東海豪雨で床上浸水152戸、床下浸水819戸の被害を受けたため、この排水機場の能力を増強した。(18m³→25m³/s) 本事業により、中江川の河道改修と調節池(1/10、約58,000m³)の整備を実施した。

■事業箇所

小牧市、北名古屋市

■事業主体

愛知県

■事業効果

東海豪雨と同規模の降雨があった場合に、調節池より下流の水位を10～20cm程度低減させる。

中江川水門及び排水機場と併せ、最大97cm程度水位を低減させ、中江川流域の浸水面積を約137haから約43haに減少させる。

